



# 2018年度「健康スコアリングレポート」から



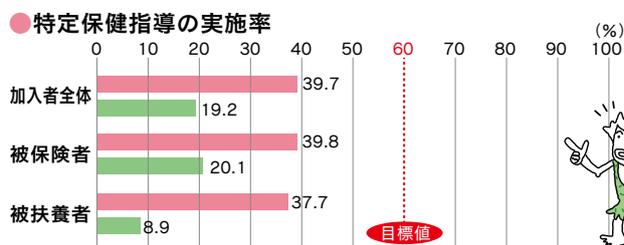
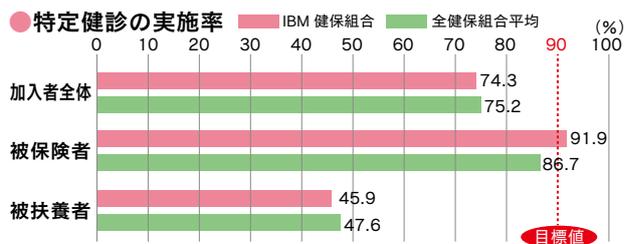
「健康スコアリングレポート」とは、各健保組合の加入者の健康状態や医療費、予防・健康づくりへの取組み状況などについて、全健保組合の平均等と比較したデータを見える化したものです。2018年度は、厚生労働省・経済産業省・日本健康会議の三者が連携して健保組合ごとのレポートを作成、通知されましたので、IBM 健保組合の特徴についてお知らせします。

※このレポートは、2016年度のデータに基づいて作成されており、医療費データは全健保組合の加入者が対象、特定健診・特定保健指導データは40歳以上75歳未満の加入者が対象となっています。

## Report 1 特定健診・特定保健指導 ～被扶養者の実施率向上が課題～

特定健診の実施率は加入者全体で約75%となっており、国の目標値である90%を達成するためには、被扶養者（ご家族）の健診実施率を上げることが必要といえます。ご家族の健診受診の推進にご協力をお願いいたします。なお、現役社員の健康診断実施率は例年約98%ですが、このレポートの被保険者には、任意継続被保険者・特例退職被保険者が含まれるため、社員健診実施率よりも低くなっています。

一方、特定保健指導の実施率は、被保険者・被扶養者ともに40%未満と、全健保組合の平均に比べれば高いといえますが、国の目標値である60%にはまだまだ達していません。なお、特定保健指導の対象者の割合は、経年変化を見ると増加傾向にあります。



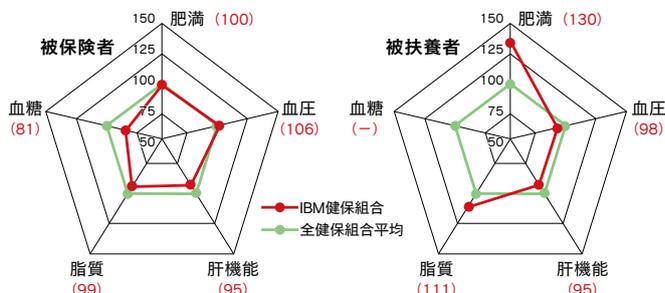
## Report 2 健康状況など ～血糖リスク集計に課題、生活習慣は概ね良好～

特定健診を受けた方を対象に集計されたもので、全健保組合の平均を100として、レーダーチャートの形が大きいほど健康状況が良好である（リスク保有者の割合が低い）ことを示しています。

ここで特徴的なのは血糖リスクですが、これは「空腹時血糖」と「HbA1c」の両方にデータがある方が集計対象となったため、「HbA1c」のみを実施していたIBM 健保組合では該当者が著しく少なく、評価できないと判断しています。糖尿病に関する検査項目はいずれかの実施でよいことになっていますので、今後、集計方法を改善していく必要があると思われます。

なお、喫煙、運動、食事、飲酒、睡眠の各生活習慣リスクを集計したデータでは、いずれも全健保組合平均よりも低く、良好な状態といえます。

### ● 健康状況（特定健診結果）



## Report 3 医療費の状況 ～平均より高い一人当たり医療費～

医療費に関するデータでは、一人当たり医療費は全健保組合平均に比べ高く、特に30代、40代が高額となっており、中でも60代は突出して高いという状況です。IBM 健保組合では、従来からがん検診や重症化予防対策を実施しており、医療機関受診の動機付けがなされているためと推測されますが、必要な方が早期に受診するのは望ましいことといえます。一方、重複受診等も少なからず含まれているため、適正な受診を心がけていただくようお願いいたします。



★健康スコアリングレポートは、すこやかサポート Plus の「データヘルス（基礎統計情報）」に掲載しています。